



ハスの若葉が水面に出てきました。
ここからぐんぐん生長し、7～8月には沼を覆うほどの
群落になります。

Vol.120
令和2年度6月号

— 外来魚防除活動が始まっています —



今年度も外来魚防除活動を実施しております。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、バス・バスターズの活動は中止となりましたが、外来魚が沼で増えないよう、職員のみで駆除活動に取り組んでいます。



電気ショッカーボート運航中

沼では成魚のオオクチバスやブルーギルを駆除するための電気ショッカーボートが運航中です。また、毎年恒例の人工産卵床も設置。オオクチバスが産み付けた卵を取り除くことで繁殖させないようにしています。



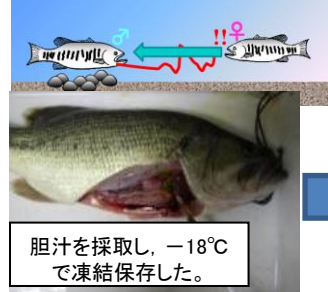
人工産卵床をチェック

これまでバス・バスターズの皆さま方のご協力により、沼のオオクチバスはかなり減少してきており、4月中旬からの成魚駆除数も7個体と過去最少となっています。

— 財団研究員の論文が海外の学術誌に掲載 —

オオクチバスのオスの胆汁に、メスを引き寄せる性フェロモンがあることを確認した財団研究員の論文が、海外の外来生物に関する学術誌「Management of Biological Invasions」に掲載されることになりました。どうやらオオクチバスのオスはメスに自分の巣で産卵させるために、性フェロモンを流しているようです。伊豆沼・内沼では、オオクチバスの駆除活動をしてますが、この研究成果は駆除活動にも応用できそうです。この論文は、下記の海外サイトで公開予定です。興味をお持ちの方はご覧ください。

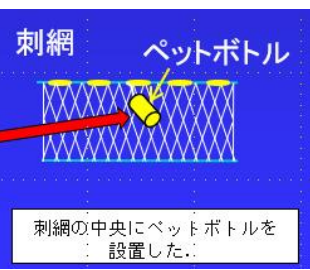
<https://www.reabic.net/journals/mbi/Default.aspx>



胆汁を採取し、-18℃で凍結保存した。



採取した胆汁をペットボトルに入れた。



刺網の中央にペットボトルを設置した。



刺網の確認状況



カタクリ 花期：4月上旬

早春のみ地上に現れる可憐な姿から、春の妖精（スプリング・エフェメラル）と呼ばれています。古来より人々に親しまれ、鱗茎（地下の球根）は片栗粉として、若芽は山菜として利用されてきました。



ルリソウ 花期：4月中旬～5月下旬

桜の花が咲く頃から瑠璃色の美しい花を咲かせる、ワスレナグサの仲間です。明るい雑木林に生育することが多いのですが、伊豆沼周辺では湿原や堤防の草原にも生育しています。



カキツバタ 花期：5月中旬～6月上旬

カキツバタは湿原に生育するアヤメの仲間です。梅雨の頃に青紫色の美しい花を咲かせるため、江戸時代から品種改良が行われてきました。野生のカキツバタは、湿原の開発や盗掘によって数を減らしています。



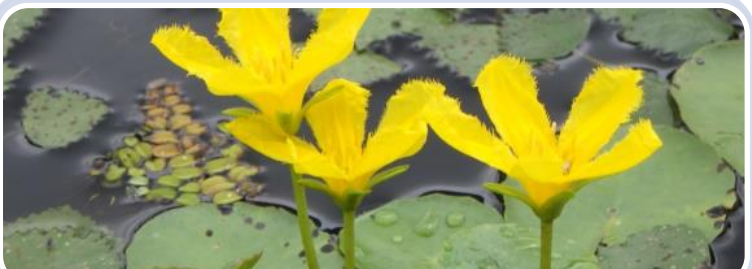
ニッコウキスゲ 花期：5月下旬～6月上旬

栗原市の花に指定されているニッコウキスゲは、市内の草原や雑木林、湿原に広く分布しており、初夏にオレンジ色の美しい花を咲かせます。伊豆沼では隣接する丘陵地の草原に多く見られ、湿地にはわずかししか生えていません。



クサレダマ 花期：6月下旬～7月上旬

湿原のヨシ原などに生育するサクラソウの仲間です。伊豆沼では人為的な改変が行われていない湿原や、湧水の多い休耕田に群生しています。初夏に明るい黄色をした花を多く咲かせます。



アサザ 花期：5月下旬～9月下旬

アサザは丸い葉を水面に浮かべる「浮葉植物」で、伊豆沼やその周辺の水路にみられます。花が美しい植物で、水路一面を黄色に染める様子は圧巻です。また花の期間が長く、5月の終わりから9月まで咲き続けます。



ミズアオイ 花期：8月上旬～9月下旬

湿地を代表する植物で、水色の花を次々に咲かせます。伊豆沼では、周辺のハス田や北岸の植物園内の池において多く見られます。ただし、発生が不安定な植物ですので年によって群落の増減が認められます。



シロバナサクラタデ 花期：9月下旬～10月上旬

平野の湿原に生育するタデ科の植物で、伊豆沼の草花のトリを飾ります。花はタデ科の植物中では大型で美しいのですが、背丈の高いヨシに隠れてしまい、なかなか見つけることが出来ません。

